

生長早く 裏作出来る 青刈用飼料作物

青刈麦類の相手役（蛋白のもと）

早春の青刈飼料

青刈えんばく

つくりやすく、生長の早い青刈えんばくは、多収で、しかも暖地の冬作飼料として欠くことが出来ません。早まきすれば越年前に一回刈れますし、春は早くから葉の多い青刈をとることが出来、畑にも、水田にも裏作が可能です。

栽培利用上の注意としては、穂が出始めると硬くなるから、刈りおくれぬこと、二度刈りのときはあまり低刈りせぬこと、排水不良地はさけること、まめ科のベッヂ、えんどうと混播することなどを守りましょう。品種としては、前進……早生、大葉で茎太く、多収だが、寒さに弱い。ピクトリー……中生、草丈高く、草質良好、寒さに弱い。岡山黒……早生、耐寒性つよく、分蘖極めて旺盛。雪印改良一〇一号……中生、耐寒性極めてつよく、分蘖旺盛、再生力もつよく、極多収。

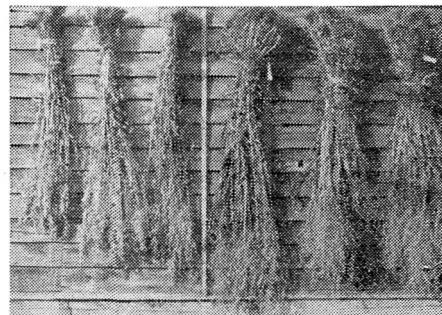
雪印改良新品种……下を御覧下さい。

青刈ライ麦

「えんばく」の越冬は、関東以西ですが、ライ麦は全国的に越冬出来る耐寒性のつよい青刈用麦です。しかも耐湿性も又つよく、大抵の水田の裏作が出来、寒地の裏作出来る早春の青刈として欠くことが出来ません。生長の良い、耐湿・耐寒の優良種としてペトクーザ純系一八五が雪印の自慢種です。ライ麦には必ずヘアリーベッヂを混播して下さい。

耐寒性のつよい

えんばく



青刈えんばく

青刈えんばくの新品種

弊社上野幌育種場において交配育成した青刈専用のえんばくが出来上りました。全国主要酪農県の試験機関で、地域試験の結果、在来の「前進」「ピクトリー」に比して、極めて多収であることが判明しました。次の特性概要を御観の上、是非御利用下さい。

太 豊(タイホー)

「前進」に比して出穂は四～五日おそく、草丈は二〇～三〇cm高く、茎太く、葉幅も広く、葉の割合が多い品種で、暖地秋まきでは、前進に比して一〇～五〇%の増収となっています。

豊葉(ホーヨー)

「前進」に比し一〇～一五日おそく、草丈はほぼ同じだが、分ケツ旺盛で、茎数多く、従つて葉の割合も「前進」より二〇%も多くなります

から、消化、栄養の点ですぐれています。秋まきで二〇～四〇%の増収を見込む

ことが出来、かつ成長点が低く、耐寒性もつよく、二度刈用としてもすぐれた能力をもつて

青刈の混播

牧草と同様、青刈作物も混播して、収量や栄養価を高めましょう。秋まきの青刈作物の混播組合せは次の通りです。

組合せ例(反当播種量・g)

① (えんばく)	二三	④ (イタリアンライ)	一・五
(コモンベッヂ)	四・五	(れんげ)	二・三
② (えんばく)	二三	⑤ (ライムギ)	二・三
(コモンベッヂ)	四・五	(ヘアリーベッヂ)	四・五
③ (イタリアンライ)	一・五	⑥ (えんばく)	二三
(えんばく)	二	(イタリアン	一・五
れんげ	二		

青刈麦類は、生長早く多収で、早春の飼料に欠くことが出来ませんが、この青刈に更に蛋白質の多いまめ科の青刈草を組合せてやりましょう。それには次のものをつかいましょう。

コモンベッヂ

ザートウイッケンとも言い、寒地では春まき、暖地では秋まき冬作のまめ科一年草です。蔓となって伸び、石灰の充分ある土壤では非常な生育を見せます。蛋白の含量が高いばかりか、地力の増進にも役立ってくれます。

ヘアリーベッヂ

サンドベッヂともいいます。コモンベッヂと良く似ていますが、コモンベッヂより耐寒性つよく、寒冷地でも越冬しますから、ライ麦との混播用として、コモンベッヂと同じ目的のために利用されます。

耐湿性のつよい

青刈えんどう

青刈麦類の相手役として、ベッヂよりも湿気に耐えるのが青刈えんどうです。酸性地や連作は、ベッヂ同様嫌いますが、湿気につよく、水田の裏作として良い成績をあげることが出来ます。品種としては、

雪印改良青刈えんどう……白花種で、寒地春まき、暖地

秋まき用。生長早く、茎葉大きく、多収品種。

オーストリアンワインターピース……赤花種で、耐寒、

耐湿性をもつて高く、伸長多収品種。

赤花在来種……赤花種で、暖地秋まき用多収種。

緑葉の多い裏作飼料

レーピー（青刈なたね）

誰で知っている「なたね」の青刈用です。誰でも作れま

す。田畠の裏作につくり、薺の出る頃に青刈りします。春早く、他の青いものない時に、この豊富な緑葉は、直ちに乳や肉のもととなります。品種としては、

① CO（シーオー）……白菜と甘藍の交配種で、人造なたねです。晩生巨大、極めて多収です。

② ハンブルグ……洋種なたねの代表で、葉大きく、つくりやすく、耐寒性もつよい品種です。

③ みちのく……早生で、菌核病につよく、早刈用の多収品種です。

デントコーンのおそまき栽培

デントコーン（青刈とうもろこし）は、夏の暑いときには、巨大な葉をひろげて、上にのびる「お化けかんらん」です。下葉から順次かきとつて、家畜にあたえますと、草丈一・五~二・一尺に伸び、その茎も餌となります。かんらんと同じ方法で栽培します。裏作もでき、栄養価も高く、収量も多いので、集約栽培に適しています。



かんらんの化物

ケール（搔き葉かんらん）

(表紙裏写真参照)

